

2010年度の環境活動を振り返って

第6期環境行動計画の初年度目標をすべて達成。
環境経営トップ企業をめざし、
グローバルな環境活動をさらに強化していきます。

2010年度、富士通グループは18項目からなる第6期環境行動計画を開始し、初年度目標をすべて達成しました。主な活動成果として、グリーンICTの提供拡大や温室効果ガス排出量の削減、また、新たに重点分野とした「生物多様性の保全」における事業活動の影響と貢献を測る定量指標の開発が挙げられます。

そして、環境経営のグローバル化も推し進めました。例えば、環境配慮製品の開発を強化するために、サーバやパソコンを開発しているドイツの富士通テクノロジー・ソリューションズとグローバル規格をベースにした環境配慮設計の共通規定を策定しました。また、環境負荷低減評価手法に関する標準化を進展させるため、国際標準化機関である国際電気通信連合やICT for Energy Efficiency Forumなどへ積極的に参画しました。これらの成果もあり、2010年度はステークホルダーの皆様から多数の表彰や評価をいただくことができました。

将来の環境経営トップ企業をめざし、今後もグローバルな環境活動をさらに強化していきます。

まず、法令遵守を徹底し、グローバルなガバナンスを強化していきます。そして、お客様や社会に対して約束している第6期環境行動計画の目標を確実に達成します。さらに、お客様の新たな価値を創造する環境技術の開発や環境ソリューションを提供するとともに、国内のデータセンターなどで培った環境先進技術をグローバルに展開していきます。



特命顧問(環境担当) 高橋 淳久
環境本部 本部長 竹野 実

2011年3月に発生した東日本大震災の影響により、エネルギーに対する意識や価値観が大きく変化し、社会全体でこれまで以上に効率良く使用していく必要があります。富士通グループはエネルギーが重要な経営資源かつリスクであるとの認識を新たにし、これまで培ってきた環境経営の基盤を活かして徹底した省エネや節電に取り組み、今後も継続的に自社のエネルギー効率を向上させていきます。また、自社での実績をもとに省エネでCO₂排出量が少ない製品やサービスの開発に積極的に取り組み、お客様のビジネス変革や持続可能な社会の構築に貢献していきます。

Stakeholder's Voice

有識者の声

富士通グループの環境への取り組みは、ビジョンとロードマップを提示しながら、長年にわたってコツコツと着実に積み重ねてきた、しっかりした取り組みだと認識しています。ICTを活用して社会の環境負荷を下げる立場にある企業として、本業を通しての環境活動に大いに期待しています。そのための研究開発への投資など、短期的な時間軸ではなく、中長期的に重要なことにもしっかりリソースを割いていることを高く評価します。

ICTに関する技術というと、ハードアプローチの印象が強いですが、全国タンポポ前線マップのように、人々の実感や琴線に触れながら、広くみんなを巻き込んでいくというソフトアプローチもできるところが強みの1つですね。

ソリューションという、機器のように目に見えるわけではないものを扱っている中で、単なるハードウェアの改善や置き換えだけではなく、トータルな働き方や暮らし方の新しい次元の提案についても、さまざまな模索と実践を進めていることがわかります。

環境経営トップ企業をめざしての取り組みとして、社会が一般的に企業に求めるものについてはかなりの部分しっかり対応し

ていると思いますので、今後は一歩先に進んで“攻め”の環境活動に大いに期待しています。

省エネやCO₂削減に注力し、成果を上げてきていますが、今後はより広く、単なる「環境」というよりも「サステナビリティ(持続可能性)」という広がりのある視点をもって、現世代も未来世代も、地球に過剰な環境負荷をかけることなく幸せに生きていける社会づくりに貢献していただきたいと思います。

またその場合、「何をするか」だけではなく、「どのように進めていくか」という点も、今後の活動の広がりや深まりを考えたときに重要になってきます。NGOや地域社会、学生や子どもなど、これまでそれほどつながりが強かったわけではない多様なステークホルダーとのダイアログやコラボレーションの作法を社員が身につけていく機会もどんどん提供していきましょう。



有限会社イーズ代表、
NGOジャパン・フォー
サステナビリティ代表
枝廣 淳子様